

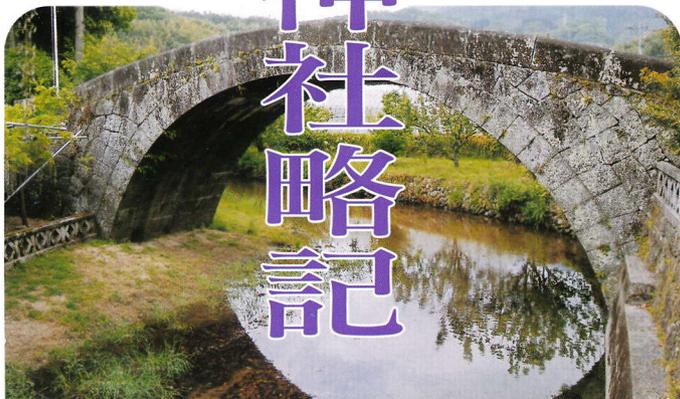


豊後
一の宮

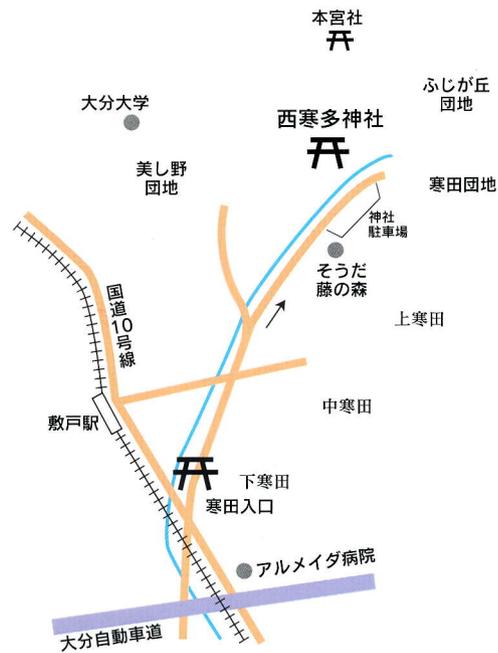
西寒多神社略記



旧国幣中社



本宮社
𐄂



豊後一の宮
西寒多神社社務所
大分市寒田1644番地
TEL097(569)4182番
FAX097(569)7000番



ふじまつり子供相撲大会



平戸つつじ



本宮山（本殿）



岩戸神楽



「ふじ」大分市指定天然記念樹



樹齢四百五十年余のふじ



御神幸祭火渡り神事



夏越祭 茅の輪くぐり



形代流し



宮司の形代流し



御神幸祭みそぎ儀式



豊後 西寒多神社略記

一、鎮座地 大分市寒田一六四四番地

二、御祭神

祭神

月読尊（心の神、精神安定の神）

西寒多大神（天照皇大御神）

天忍穗耳命

相殿

応神天皇

神功皇后

武内宿禰

殿内所在諸神

伊弉諾大神（縁結びの神）

大直日大神（厄除、交通安全の神）

天思兼大神（知恵の神、学業の神）

大歳大神（倉稲魂大神（農業、食物の神）

軻遇突知大神（火の神、荒神さま）

天兒屋根命（祭祀の神、国土鎮護の神）

経津主神（必勝、合格の神）



万年橋 大分県指定有形文化財





校倉造御神庫 大分市指定有形文化財

四、主なる祭典

- 元旦祭 一月一日
- 厄除星祭 二月一、二、三日
- 祈年祭 三月十五日
- 本宮春祭 三月二十日
- 例大祭 四月十五日
- ふじまつり 五月三日より五日まで
大祭・育木祭・慰霊祭・水神祭・勸学祭
- 大祓 六月三十日
- 夏越祭 七月最後の日曜日
(茅の輪くくり形代流し)
- 本宮秋祭 十月二十日
- 新嘗祭 十一月二十三日
- 大夜祭 十二月三十一日
- 古守札焼納祭 毎月一日
- 月次祭 毎月一日
- 神幸大祭 (三年目毎)
- 御神衣祭 (特殊神事) 三十三年目
毎に御祭神の神衣を新調する式年大祭
- 御祈願 初宮旨・厄除・交通安全
合格祈願・など諸祈願受付中



本殿

三、由緒

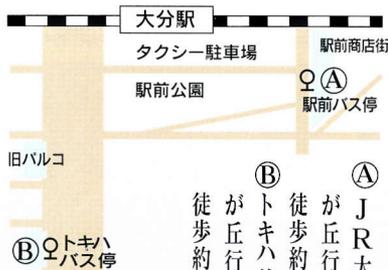
創祀は遠く応神天皇九年四月に武内宿禰勅命を奉じて西寒多山上(本宮山)に宮殿を建立すとあり延喜式内の大社として国司をはじめ武将の信仰あつく、特に大友能直公、宗麟公をはじめ代々の尊崇厚く応永十五年(二四〇八年)三月、大友親世公社殿を現在地に遷し、家内安全、婚姻、学業、農業、食物、厄除、交通安全、消防の守り神として国民の崇敬いよいよ深く、明治四年五月十四日国幣中社に列格、豊後の国の一の宮として皇室及び国家の優遇をうけ宝物として宗麟愛用の印章四個、大友能直、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の古文書を有し、現在別表神社として尊崇をあつめている。

五、境内神苑

二六、五〇六平方メートルの境内には樹令四〇〇年余りのふじ(市指定名木)、幹径一米、棚の広さ三三三〇平方メートル、花房一・五米におよぶ稀有の名木と、樹令一〇〇年余りの数百株の平戸つつじ。春の新緑、秋の紅葉は荘厳な社殿とともに清遊をかねた霊地である。なお本宮山奥宮まで六軒の登拝路は一日の家族ハイキングコースとして快適である。

六、参拝順路

- ① JR大分駅下車駅前バス停からふじが丘行に乗車し、ふじが丘南で下車 徒歩約八分
- ② トキハ前バス停②番のりばからふじが丘行に乗車し、ふじが丘南で下車 徒歩約八分



※ JR 大分駅下車徒歩三〇分
 ※ 犬飼・戸次方面からは、JR 大分駅
 前の交差点を左折、車で約七分
 ※ 軒田橋から二・五キロ車で約七分